

## ● 活動目的

- 1) WHO/UNICEF「母乳育児がうまくいくための10のステップ(2018年改訂)」に基づき、継続的且つ包括的に母乳育児を支援することを目的として、母乳育児推進室を設置し組織的に運営を行う。
- 2) 支援の対象は、当院で出生した健康な正期産新生児だけでなく、NICU・小児科病棟などに入院する病児とその母親、疾患を持つ母親など、すべての児と母親、その家族とする。
- 3) 母乳育児中の母子だけでなく、疾患などのために母乳育児ができない母子に対しても適切な支援を提供する。

## ● 活動状況

## 1. 推進室会議:2か月に1回開催

## 2. 院内活動

## a) 研修

- a) 新採用者向け研修:赤ちゃんにやさしい病院(BFH)オリエンテーション(多田克彦母乳育児推進室長)
- b) 初期研修医・学生向け研修:
  - ① 4月「妊娠・授乳と薬剤」中村一仁(産婦人科)・服部真理子(新生児科)
  - ② 6月(助産学生)1月(看護学生)「BFHとは」柚木直子(6A)中村和恵(新生児科)

## b) 院内での連携・啓発活動

- a) 各病棟からの授乳婦の母乳育児相談(随時)
- b) 妊娠・授乳と薬剤に関する相談(妊娠と薬外来、薬剤部と連携)
- c) 院内掲示物の見直し・国際規準違反がないか確認(産科・小児科外来・授乳室など)

## 3. 院外への情報発信

## 1) 保健医療従事者対象

- a) 小児救急医療研修(成育医療研修):講義・病棟見学
- b) 岡山県看護協会・新人助産師研修:  
講師:有道順子(外来)小谷教恵(6A)、多田克彦(産婦人科)、中村和恵(新生児科)
- c) 吉備国際大学学生1日研修:BFH・周産期母子医療センター
- d) 建部医療福祉専門学校1日研修:BFH・周産期母子医療センター
- e) 母乳育児シンポジウム(8月、北海道)  
シンポジスト:岡本ゆかり、参加:5B, 6A スタッフ
- f) Baby-Friendly NICU ワークショップ参加(8月、大阪):5B 武田、浅野
- g) 母乳哺育学会(9月、岡山):実行委員、発表、講演として参加  
講演:多田克彦、発表:5B 武田ら、6A 伊藤ら、薬剤科 上野ら、新生児科 大山ら  
BFH 連絡会議参加(東京) 11月3-4日
- h) インターンシップへの協力
- i) 国立病院療養所総合医学会・母乳育児推進の集い(担当 三重中央医療センター)  
講師:中村和恵(災害と乳幼児の栄養)、参加:常久師長 香川師長

2) 患者様ご家族、一般の方対象

- a) わいわいサークル 毎週木曜、月 1 回ミニ講座開催(離乳食・虫歯予防・子どもの服薬・救急時の対応など)
- b) 病院フェスタ:BFH に関するポスターや情報掲示・育児相談・歯磨き相談・ねぞうアート・写真撮影)
- c) 出前講座
  - ① 南方子育て支援センター育児講座:7 月中村和恵(新生児科)9 月土屋弘樹(小児科)
  - ② 中高生への性教育(6A 助産師)
- d) 育児相談事業(看護協会)2 月
- e) 国際助産師の日(看護協会) BFH ポスター展示

4. 赤ちゃんにやさしい病院月間(毎年 8 月 1 日-31 日)

- 1) 世界母乳育児週間(8 月第 1 週)にあわせて、2017 年より 8 月を「赤ちゃんにやさしい病院」月間と設定し、乳幼児の栄養に関する啓発活動を行っている。
- 2) 2019 度
  - a) 病院正面玄関ロビーで垂れ幕掲示・母乳育児についての情報のパネル展示。
  - b) 「赤ちゃんにやさしい病院」新聞を作成・配布(一般外来者・各病棟)

5. 海外研修受け入れ

12 月 16-18 日

カンボジア周産期医療従事者研修(国際医療センター主催):カンボジアからの研修者 4 名、通訳 1 名、国際医療センター医師 3 名  
NICU、乳幼児健診、ハイリスク妊産婦の管理等について講義・実習を提供した。